

科目名	臨床医学特講 2							年度	2026
英語科目名	Clinical Medicine Special Lecture 2							学期	後期
学科・学年	鍼灸科 3年次	必/選	必	時間数	45	単位数	3	種別※	講義
担当教員	岡安維蓉/矢野恭一郎		教員の実務経験	有	実務経験の職種		鍼灸師		

【科目の目的】
 鍼灸臨床を行う上で、日常よく遭遇する疾患の施術・診断などの臨床に不可欠な人体の生命現象の機序・特徴及び基礎となる必要な知識を学びます。

【科目の概要】
 生理学を学ぶ意義を理解する。人体の生命活動を細胞レベルから理解する。細胞の構造・代謝・機能に関わる基本を理解することから始まり、細胞にとって最適な生体内部環境の恒常性について理解する。続いて神経総論・中枢神経系・末梢神経系・自律神経系・筋（骨格筋・心筋・平滑筋）に関する身体内での機能を理解する。また関連する内臓疾患また運動疾患についても概説する。

【到達目標】
 鍼灸の学習を進める上で必要な機能に関する知識を習得する。医療の基本となる医学用語を理解すると同時にしっかりと記憶できるように身につけることが必要となる。その上で人体の生命活動のシステムを学び、人体に対しての理解を深める。細胞レベルから生体の内部環境の恒常性を維持するための様々な特性を理解する。体の正常状態を知ることによって臨床で見受けられる異常を理解し、施術・診断に応用できるように学びます。

【授業の注意点】
 授業日数の3/4以上出席しない者は定期試験を受験することはできない。講義時間に無連絡で20分以上遅刻された場合、受講はできないが出席の扱いをしない。明確な理由が無い早退は出席したとは認めない場合がある。課題は、本科の規則に従った形式で提出する。特定の指示が有る場合を除いて、手書きでの作成を原則とする。

評価基準＝ルーブリック					
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力
到達目標 A 神経系の総論	すべて理解できる。身につけている。	理解できる。身につけている。	理解できるが部分的に身につけている。	医学用語のみ理解できる	学習意欲欠け、学習内容を理解できない。
到達目標 B 中枢/末梢神経系	すべて理解できる。身につけている。	理解できる。身につけている。	理解できるが部分的に身につけている。	医学用語のみ理解できる	学習意欲欠け、学習内容を理解できない。
到達目標 C 自律神経系	すべて理解できる。身につけている。	理解できる。身につけている。	理解できるが部分的に身につけている。	医学用語のみ理解できる	学習意欲欠け、学習内容を理解できない。
到達目標 D 筋	すべて理解できる。身につけている。	理解できる。身につけている。	理解できるが部分的に身につけている。	医学用語のみ理解できる	学習意欲欠け、学習内容を理解できない。
到達目標 E					

【教科書】
 東洋療法学校協定指定教科書：生理学

【参考資料】
 東洋療法学校協定指定教科書：解剖学・病理学・鍼灸理論・臨床医学各論

【成績の評価方法・評価基準】
 卒業テスト

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		臨床医学特講 2			年度	2026	
英語表記		Clinical Medicine Special Lecture 2			学期	後期	
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価	
1	細胞学	細胞と全体との関係	1	ホメオスタシス	恒常性を維持することの大切さ	3	
5	循環器系	循環系と全体との関係	1	心臓の正常な働き	心疾患との関係	3	
			2	血管系	動脈硬化・血圧などとの関係		
			3	血液	貧血・白血病などとの関係		
3	呼吸器系	呼吸と全体との関係	1	呼吸器官	呼吸障害との関係	3	
			2	ガス運搬	呼吸障害との関係		
4	消化器系	消化吸収と全体との関係	1	口腔・食道	口内炎・食道がんなどとの関係	3	
			2	胃腸・肝	消化管潰瘍・胃がん・肝炎・肝臓がんなどとの関係		
			3	膵・胆	膵炎・膵臓癌・胆石・黄疸症などとの関係		
5	代謝	5大栄養素と全体との関係	1	三大栄養素	糖・脂質・タンパク質の代謝	3	
			2	ビタミン	脂溶性・水溶性ビタミンの作用と欠乏症等		
			3	基礎代謝	基礎代謝率とホルモンとの関係		
6	体温	体温と全体との関係	1	基礎体温	基礎体温と冷え症との関係	3	
			2	発汗	発汗と脱水症状と熱中症との関係		
			3	外気温の変化	低気温・高気温と体温調節中枢との関係		
7	排泄	腎臓と全体との関係	1	尿量の変化	尿量の変化と泌尿器官疾患との関係	3	
			2	腎臓	腎臓の構造と腎障害との関係		
			3	膀胱尿管尿道	前立腺肥大症・尿路結石との関係		
8	内分泌系	生体機能の調節系	1	ホルモン	各種ホルモンとホメオスタシスとの関係	3	
			2	ホルモン	各種ホルモンの分泌異常との関係		
9	生殖・成長と老化	性別・年齢との関係	1	生殖	男・女生殖と不妊症・生理不順などとの関係	3	
			2	成長	小人症・巨人症などとの関係		
			3	老化	排尿困難・嚥下困難・痴呆症などとの関係		
10	神経系	中枢神経系	1	脊髄	脊髄反射・ブラウンセカール症候群などとの関係	3	
			2	脳幹	自律神経最高中枢と日常生活との関係		
			3	小脳・大脳	大字症・失語症などとの関係		
11	神経系	末梢神経系	1	脳神経	脳神経障害との関係	3	
			2	脊髄神経	末梢神経麻痺などとの関係		
			3	体性神経・自律神経	体性-内臓・内臓-体性反射などとの関係		
12	筋系	筋	1	骨格筋	重症筋無力症などとの関係	3	
			2	心筋	狭心症・心筋梗塞などとの関係		
			3	平滑筋	腹痛・胃痛・便秘などとの関係		
13	運動系	運動	1	脊髄反射	パーキンソン病などとの関係	3	
			2	錐体路	錐体路障害・麻痺との関係		
			3	錐体外路	錐体外路障害との関係		
14	感覚系	感覚	1	体性感覚	五十肩・膝痛・腰痛などとの関係	3	
			2	特殊感覚	嗅覚障害・メニエル病などとの関係		
			3	特殊感覚	難聴・黄斑変性症などとの関係		
15	免疫系	防御機構	1	体液性免疫	抗体とワクチンとの関係	3	
			2	細胞性免疫	癌の治療などとの関係		
			3	免疫反応	ウイルスなど風邪など感染症との関係		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	臨床医学特講 2							年度	2026
英語科目名	Clinical Medicine Special Lecture 2							学期	後期
学科・学年	鍼灸科 3年次	必/選	必	時間数	45	単位数	3	種別※	講義
担当教員	岡安維蓉/矢野恭一郎		教員の実務経験	有	実務経験の職種	医学博士/鍼灸師			
【科目の目的】 臨床特講1に引き続き、診察学、弁証論治、処方学の知識と鍼灸技術を向上させる。									
【科目の概要】 診察学(四診)、処方学の知識を習得し、各疾患の症例に対し、弁証論治と処方出来る									
【到達目標】 A:各疾患の主な弁証論治を理解出来る B:各疾患の主な弁証論治に対して、処方が出せる C:各疾患の症例に対し、弁証論治出来る D:各疾患の症例の処方に対し、補瀉手技出来る E:補瀉手技によって、必要な響きが出せる									
【授業の注意点】 授業日数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。講義時間に無連絡で20分以上遅れた場合、受講はできるが出席の扱いをしない。明確な理由が無い早退は出席したとは認めない場合がある。 課題は、本科の規則に従った形式で提出する。特定の指示が有る場合を除いて、手書きでの作成を原則とする。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	疾患の主な弁証論治を理解し、把握が出来た(100%)	疾患の主な弁証論治を90～80%程度理解することが出来た	疾患の主な弁証論治を80～70%程度理解することが出来た	疾患の主な弁証論治を70～60%程度理解することが出来た	疾患の主な弁証論治を60%以下の理解にとどまった				
到達目標 B	弁証論治に対して、的確な処方が出せた(100%)	弁証論治に対して、90～80%程度の処方が出せた	弁証論治に対して、80～70%程度の処方が出せた	弁証論治に対して、70～60%程度の処方が出せた	弁証論治に対して、60%以下の処方を出すにとどまった				
到達目標 C	症例に対して、的確な弁証論治が出来た(100%)	症例に対して、90～80%程度の弁証論治が出来た	症例に対して、80～70%程度の弁証論治が出来た	症例に対して、70～60%程度の弁証論治が出来た	症例に対して、60%以下程度の弁証論治にとどまった				
到達目標 D	症例の処方に対して、的確な補瀉手技が出来た(100%)	症例の処方に対して、90～80%程度の補瀉手技の完成度	症例の処方に対して、80～70%程度の補瀉手技の完成度	症例の処方に対して、70～60%程度の補瀉手技の完成度	症例の処方に対し、60%以下程度の補瀉手技の完成度にとどまった				
到達目標 E	補瀉手技によって、必要な響きが出せた(100%)	補瀉手技によって、90～80%程度の響きが出せた	補瀉手技によって、80～70%程度の響きが出せた	補瀉手技によって、70～60%程度の響きが出せた	補瀉手技によって、60%以下程度の響きが出せた				
【教科書】 自作プリント、東洋医学概論 医道の日本社、東洋医学臨床論 南江堂、問診のすすめ 東洋医学術出版社									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 期末試験(100%)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		臨床医学特講 2			年度	2026
英語表記		Clinical Medicine Special Lecture 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	各論/高血圧・低血圧	高血圧・低血圧に対する、主な弁証論治を習得する	1 弁証論治	主な弁証論治を理解把握出来た	1	
			2 処方	弁証論治に対し、処方を出せた		
			3 処方穴の意味	処方穴の意味が理解出来た		
2	実技・症例検討/高血圧・低血圧	高血圧・低血圧の症例に対し、弁証論治が出来る	1 弁証論治	症例に対し、的確な弁証論治が出来る	2	
			2 処方	弁証論治に対し、処方を出せる		
			3 処方の実践	処方に対し、補瀉手技を用い、実践出来る		
3	各論/不眠	不眠に対する、主な弁証論治を習得する	1 弁証論治	主な弁証論治を理解把握出来た	1	
			2 処方	弁証論治に対し、処方を出せた		
			3 処方穴の意味	処方穴の意味が理解出来た		
4	実技・症例検討/不眠	不眠の症例に対し、弁証論治が出来る	1 弁証論治	症例に対し、的確な弁証論治が出来る	2	
			2 処方	弁証論治に対し、処方を出せる		
			3 処方の実践	処方に対し、補瀉手技を用い、実践出来る		
5	各論/月経異常	月経異常に対する、主な弁証論治を習得する	1 弁証論治	主な弁証論治を理解把握出来た	1	
			2 処方	弁証論治に対し、処方を出せた		
			3 処方穴の意味	処方穴の意味が理解出来た		
6	実技・症例検討/月経異常	月経異常の症例に対し、弁証論治が出来る	1 弁証論治	症例に対し、的確な弁証論治が出来る	2	
			2 処方	弁証論治に対し、処方を出せる		
			3 処方の実践	処方に対し、補瀉手技を用い、実践出来る		
7	各論/月経異常	月経異常に対する、主な弁証論治を習得する	1 弁証論治	主な弁証論治を理解把握出来た	1	
			2 処方	弁証論治に対し、処方を出せた		
			3 処方穴の意味	処方穴の意味が理解出来た		
8	実技・症例検討/月経異常	月経異常の症例に対し、弁証論治が出来る	1 弁証論治	症例に対し、的確な弁証論治が出来る	2	
			2 処方	弁証論治に対し、処方を出せる		
			3 処方の実践	処方に対し、補瀉手技を用い、実践出来る		
9	各論/痺症	痺症に対する、主な弁証論治を習得する	1 弁証論治	主な弁証論治を理解把握出来た	1	
			2 処方	弁証論治に対し、処方を出せた		
			3 処方穴の意味	処方穴の意味が理解出来た		
10	実技・症例検討/痺症	痺症の症例に対し、弁証論治が出来る	1 弁証論治	症例に対し、的確な弁証論治が出来る	2	
			2 処方	弁証論治に対し、処方を出せる		
			3 処方の実践	処方に対し、補瀉手技を用い、実践出来る		
11	各論/肩こり	肩こりに対する、主な弁証論治を習得する	1 弁証論治	主な弁証論治を理解把握出来た	1	
			2 処方	弁証論治に対し、処方を出せた		
			3 処方穴の意味	処方穴の意味が理解出来た		
12	実技・症例検討/肩こり	肩こりの症例に対し、弁証論治が出来る	1 弁証論治	症例に対し、的確な弁証論治が出来る	2	
			2 処方	弁証論治に対し、処方を出せる		
			3 処方の実践	処方に対し、補瀉手技を用い、実践出来る		
13	各論/腰痛	腰痛に対する、主な弁証論治を習得する	1 弁証論治	主な弁証論治を理解把握出来た	1	
			2 処方	弁証論治に対し、処方を出せた		
			3 処方穴の意味	処方穴の意味が理解出来た		
14	実技・症例検討/腰痛	腰痛の症例に対し、弁証論治が出来る	1 弁証論治	症例に対し、的確な弁証論治が出来る	2	
			2 処方	弁証論治に対し、処方を出せる		
			3 処方の実践	処方に対し、補瀉手技を用い、実践出来る		
15	実技・症例検討	ベアの状態を弁証論治し、臨床実践する	1 弁証論治	症例に対し、的確な弁証論治が出来る	2	
			2 処方	弁証論治に対し、処方を出せる		
			3 処方の実践	処方に対し、補瀉手技を用い、実践出来る		

評価方法：1. 口頭確認、2. 教員評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等